



磯のタイドプールを調査しよう！



タイドプールの生態にせまる。

数あるタイドプールを調査することで、タイドプールごとの特徴や変化に気付くことが出来ます。理科や生物の教育活動としても有効です。4-6名のグループで活動します。

対象 小学校(中学年)～大人
場所 磯
時間 2時間 ※春～秋の大潮前後

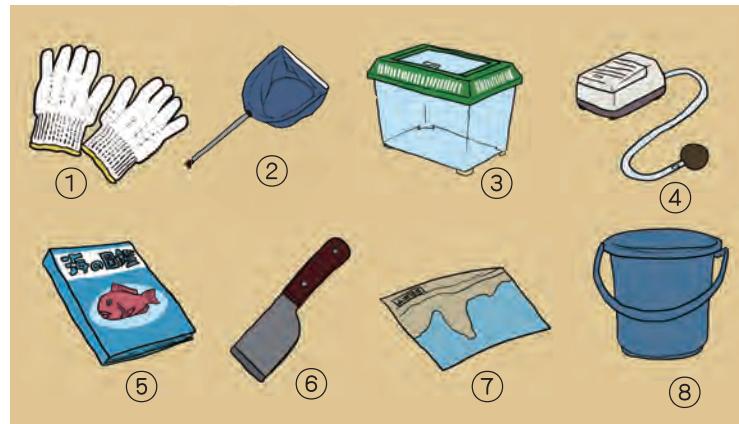
アロカラムの前に…

1. 用意するもの

参加者(人数分)

- | | |
|------------|----------------------------------|
| ①軍手 | ⑥平ベラ(鉄製)
岩に付着した生物をはがす |
| ②たも網 | ⑦実施場所の地図
ふりかえりで使えるような
大きな物 |
| ③水槽かプラケース | ⑧バケツ |
| ④エアレーション装置 | |
| ⑤磯の生物図鑑 | |

※その他に着替え・帽子・タオル・日焼け止めなど活動のしやすい服装や道具を用意する。



2. 事前の準備

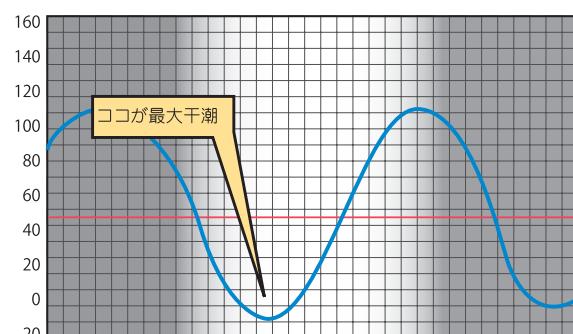
タイドプールを選ぼう

- 高低差のない平らな地形を選んで実施をしましょう。
- タイドプールが活動に必要数現れるか干潮時に確認し、プログラム中に伝えられるようしましょう。

※調査の際はp. 30の磯の観察会【事前の準備】を参考にして安全に配慮して行いましょう。

潮の満ち引きをしっかりチェック

- タイドプールは干潮と共に現れます。実施時間を考慮し、プログラムの終了時に最大干潮になるようにしましょう。



アロカラムの本番！

1. 参加者にルールを伝えよう！(約10分)

参加者がそろい挨拶を済ませたら、実施範囲と危険物について共有しましょう。特に転倒した際の危険や危険生物については全員が理解できるように実物や写真を使ってしっかり伝えましょう。



2. タイドプールを調査！(約90分)

※調査は4-6名のグループで行うので、集まっているか確認しましょう。

グループごとに調査を行うタイドプールを決め、調査を始めます。調査ではどの生物がどこに(岩、砂場、海藻など)、何匹いたか分かるようにグループの中で記録係を作り、記録しましょう。

生物以外にも調査したタイドプールの特徴や感じたこと（温度・広さ・海藻の有無など）をメモします。
※記録の際はp. 48のフィールドノートを使うと便利です。

またスタッフはどのグループがどのタイドプールを調査しているか把握し、地図に落とし込みます。
終了10分前に予鈴を行うと円滑に集合できます。



3. 結果発表(約20分)

調査結果を全グループで共有します。地図を使ってどのグループがどこで調査をしたか案内をしてから、それぞれのグループで発表させましょう。

発表の際は①タイドプールの特徴、②一番多かった生物、③そのほか気付いた事を発表し、どのような結果だったかを伝えます。1グループの発表が長すぎないように注意しましょう。

スタッフは発表の中で出た発見を拾い、タイドプールの場所や深さなど発表同士がつながるような解説をして理解を深めます。



ココがポイント

静と動を使い分ける

タイドプールに入ると生物が隠れてしまい、分からなくなってしまうことがあります。
ときおり動かすじっとする時間を作ると、新たな生物が現れるかもしれません。

じっとしていると
魚やカニが隠れ家
から出てくるよ。



タイドプールの環境と生物

タイドプールは潮の満ち引きはもちろん、暑さや寒さも厳しい過酷な環境です。それにもかかわらず多様な生物がここで暮らしています。

その環境も広さや深さ、海への距離が異なるだけで大きく変わるために、生物の構成もガラリと姿を変えます。

中でも狭くて深いタイドプールは、海藻が生えていたり、魚が取り残されていることが多いので、様々な生物に出会えます。



狭くて深いタイドプールでは大きなショウジンガニに出会えるかも